



バスラ日誌（2月6日）

1 居住区の維持管理には、現地雇用のアラブ人や南アジア系の人々が数多く携わっている。食堂担当の人達とは、日本隊のさよならパーティ以来仲良くなったが、最近では清掃担当の人達ともお近づきになってきた。昨日は、その中の1人が笑顔で近づいてきたので、しばらく話をした。「ヤバングッド」と言うのでありがとうと返すと、タバコを忘れたらしい仕草をするのでタバコをプレゼントした。すると靴が古くなったと言っているの、靴はあげられないと言う。次は、いい時計だと言っているみたいなので、1つしかないからあげられないと言う。また、250ディナール紙幣をだして5ドルでいいと言うから、ドルは今持っていないと返事をした。持っている人が、持っていない人に分け与えるのがイスラムの教えだと聞いた。もらった人は、神には感謝するが、持っている人が分けるのは当たり前だと考えるとも聞いた。英軍、伊軍、ルーマニア軍の将校から、イラクでは彼らのためにどんなに活動しても感謝されることはなく、要求は際限ないという嘆きもよく聞く。数千年の文化が、たった2年で変わるはずはないのかもしれない。しかし、日本人にだって終戦当時、苦しい時代があったのだ。やはり、豊かさが必要なのだと思う。石油だけではなく、もともと豊かな国であったイラクが元の姿に戻る日が早く来ればいいと思う。

()

2 司令部まで歩いていく途中、若い英軍の将校が近づいてきて話しかけてきた。積極的な挨拶運動が功を奏し、ついに知らない人からも声をかけられるようになったかと思った。「……」、ん、日本語だ。「私は、サマワでLOをしているビル(間違えてたらゴメンナサイ。)です。』『日本語上手ですね。』『母が日本人ですので。今ヘリが飛ぶまで待っているところです。』とても流暢な日本語で、さわやかな笑顔。『時間があつたら、司令部で他の3人を紹介しますよ。』『用件を済まして、時間があれば伺います。』敬語もちゃんと使っている。司令部に来たら、拉致してこっちで勤務してもらおうと思ったが、残念ながら、サマワに帰ってしまったようだ。残念。とても残念。1日でもいいから。

()

2 本日快晴、過ごしやすし。バスラ4名、極めて健康。

()、()、()、()